

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。時折、真夏の様な暑さの日があり、またじめじめと梅雨の到来を感じさせる日が続いておりますが皆様はお変わりございませんでしょうか。今回は先日、引退を発表した卓球日本代表の石川佳純（いしかわかすみ）選手をご紹介したいと思います。石川選手は、7歳から卓球を始め、14歳から日本代表として、国際大会に出場し、全日本選手権を5度の優勝、2012年ロンドン五輪女子団体で、日本卓球史上初となる銀メダルを獲得し、続くリオ五輪、東

京オリンピックでも表彰台に立つ活躍でした。しかし、この輝かしい実績とは裏腹に、人知れず葛藤を抱えていたようです。引退会見では『何事も追い抜くときは楽しいが、追い抜かれる時は苦しかった』。後輩の台頭に直面した心境を初めて打ち明けたのがとても印象的でした。それでもなお諦めない事の大切さや常にチャレンジし続ける事の大切さを改めて卓球から学んだとの事でした。現役時代、幾度となく立ちはだかる壁を前に『なにくそ！』と自分を鼓舞し、毎日コートに立ち続けたそうです。この反骨精神には大変、心をうたれました。私自身も石川選手のように『絶対に諦めない心』『常に前を向いてチャレンジし続ける精神』を見習いたいと痛感致しました。

梅雨空の頃、これから足元が悪い日が続きますが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

大切な人達は何時も身近に—— 自分を支えてくれる人について考える物語



その方は昨年弊社を退職した長年一緒に働いてくれた人でした。とても素敵で物事をいつも達観して分析してくれる心強い人だったのです。

私が苦境に立った時も「前を見ては駄目だよ。足元を見て一歩ずつ歩くんだよ。そうすると知らず知らずに成長していくのよ。山登りと一緒だよ。」と私の心が軽くなる言葉を投げかけてくれたのです。

以前の私は仕事に真剣な余りに決して間違いをしてはいけないと気負って仕事をしていました。そんな時も「正しい事を言う時は逃げ道を用意しなければ正しい事は相手の心に響かないのよ」と何度も諫めてくれたのです。

その人は読書が大好きで本の文章の一説をいつも私に教えてくれたのです。テレビのドラマを見ても私に「このドラマのセリフを聴いた時に貴方を思い出したよ。『戦いとは屈しない心を持つ事を言うのだ』貴方にピッタリな言葉だよ」と・・・。

先日主任介護支援専門員の研修で「セルフケア」が題材でしたが、講師の先生が自身のセルフケアを簡単に行うのはリラックスな状態で目を閉じ自分が窮地に追い込まれた時に自分を何時も励ましてくれる人を思い出し、その人が自分になんと言ってくれるか想像してみてください。との問いにその人の言葉が頭をよぎり涙が零れたのでした。

どんな時も自分を励ましたり、叱ってくれる存在に感謝の言葉を伝えるのを忘れてしまう自分がある事にも気付きました。

大切な人達は何時も自分の身近にいる事を忘れないようにしなければいけないと心に誓ったのです。



【鯉のぼり】 壁紙制作

画用紙で鯉のぼり、金太郎、熊を切り抜いて作りました。

誕生日

誕生日カードを差し上げ、おやつでケーキを出しました。皆さん「ありがとう」「ケーキ美味しい」と言って喜んで召し上がられていました。



NEWS 今月のニュース

小型ロボが高齢者見守り 呉・安芸灘諸島で実証実験

1人暮らしの高齢者の見守り支援や生活習慣の改善に、小型のコミュニケーションロボットを活用できるかどうかを探る実証実験が、広島県呉市の安芸灘諸島で進んでいる。薬の服用時間になると話しかけて知らせたり、遠方の家族や介護職員とメッセージをやりとりしたりする機能がある。介護職員の負担増加が課題となる中、市と市社会福祉協議会が2月に始めた。市によると、コミュニケーションロボットを使った見守りに関する実証実験は県内で初という。

「お薬は飲まれましたか」。上蒲刈島（蒲刈町）で1人で暮らす名田敬子さん（88）は、ロボットに語りかけられるとほほ笑んだ。「目がかわいらしく、愛着が湧いてきた」。2月に届いたロボットに「まめた」と名付けてかわいがっている。「誰かと会話しているような感じで楽しい。薬を飲むのを忘れずにすむので

助かる」と語る。

ロボットは、ユカイ工学（東京）が開発した「BOCCO emo（ボッコ エモ）」。高さ約14センチ、重さ約400グラムで雪だるまのような姿をしている。通信機能があり、ネット環境が整備されていなくても使用できる。

起床時間や薬の服用時間になると利用者に話しかける設定をしたり、遠方にいる家族や介護職員とアプリを通じてメッセージを音声でやりとりできたりする機能がある。センサーで部屋の温度や湿度などを測定。人の動きを感知、記録することで孤独死を防ぐ役割も期待される。

2月から安芸灘諸島の上蒲刈島と豊島で、名田さんを含め単身生活を送る5人の協力を受け、試験的に運用している。

市社協によると、利用者や家族へのアンケートで「癒やしになる」「安心感や見守られ感があり孤独の

解消につながる」などの声があったという。一方で、ネットワークの接続が不安定なときがあるなどの課題も指摘された。

市などは7月まで実験する予定で、協力者の意見をもとに今後の運用の在り方を検討する。（開沼位晏）



コミュニケーションロボットに話しかける名田さん㊦

<中国新聞デジタル 23/5/24(水)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>